

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議や研修等で理念に沿った内容を繰り返し行っている。職員一人ひとり、理念に沿って自身の目標を設定し、それを定期的に面談しながら、実現できるように指導している。	開設時に作成した事業所理念を玄関、スタッフルームに掲示しており、ユニットや職員個人の目標も設定し、振り返りの機会を設け、理念の実践ができるように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、R2.3～はボランティア等地域の方との交流は自粛している。敷地内の除草を月1回行って下さっている。	地域のクリーン活動、さいの神などの行事にもご利用者と一緒に参加しています。また、地域の方と一緒にいも掘りをしたり、近隣住民からホームの環境整備を行っていただいたり、地域のボランティアの方にも来ていただく等、積極的に地域とのふれあいが心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	三和カフェひなたの運営委員会の一員として登録しているが、新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で、休止中です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、年6回定期的に開催している。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、R2.4とR2.6の会議については、書面での報告のみとしている。また、質問や意見等については、施設に連絡をいただく形をとった。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、町内会長、民生委員、老人会代表、地域包括支援センター職員、ご利用者、ご家族から出席してもらっています。参加者へ事業所の活動報告や事故報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて、サービスの質を向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険上の規定等不明な点は、総合事務所担当・包括支援センター担当者にその都度伺いをたてている。運営推進会議の場では、アドバイスをいただいている。	地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただいております。また、地域ケア会議にも参加し情報を収集しています。また、事業所広報も月に定期的に送付する等、連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束適正化委員会」で3か月に1回身体拘束について検討を行っている。定期的な研修も実施し、身体拘束しない、ということを繰り返し共通認識が持てるように行っている。「3密」を避け、必要に応じて、文書等でも周知を図っている。	身体拘束を行わない方針のもと、玄関の施錠も夜間のみとしています。また、事業所で身体拘束に関する研修を行ったり、3ヶ月1度身体拘束の検討会を行うなど、身体拘束をしないケアに努めています。	調査時点で身体拘束に関する研修の報告書が確認できない職員がいましたので、研修後に作成を徹底されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等でどんなことが虐待になるのか、虐待をなくすためにはどうしたらよいか、言葉の使い方など、職員全体で考える機会を、定期的に設けている。また、職員間で注意し合える環境づくりに努めている。	言葉による抑制についても管理者が気付いた時に指導したり、外部研修の資料等も活用し、事業所にて虐待防止についての研修を行い周知徹底しており、虐待の防止に努めています。	調査時点でスピーチロックに関する研修の報告書が確認できない職員がいましたので、研修後に作成を徹底されることを期待します。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	保佐人制度利用1名、成年後見制度利用1名あり。職員には制度について定期的に研修し、理解を深められるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、変更、解約、改正時等、一つ一つ丁寧な説明を行い、わかりやすいように解説したもの等も用意し、渡す等の対応で理解を得ている。又、疑問点や分からない事があった時は、いつでも気軽にお聞き下さる様伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話連絡時等、様子などをお伝えするとともに、不明な点、要望等をお聞きし反映している。また、意見箱を設置し、いつでも意見を頂けるようにしている。ご利用者の意見を尊重し、リクエスト等にも応じている。	運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。また、事業所の家族会や行事にはご家族にも参加していただき、ご家族との交流を図り意見が出易くされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、現場に入っており、職員の声が届きやすい環境となっている。それを意見・要望として社長に日々伝えるとともに、全体会議等職員の集まる場で検討や結論を出している。	日常の業務の中で職員から改善提案があれば、毎月の全体会議・ユニット会議の場で職員同士で検討が行われ、改善されています。また、状況に合わせて個人面談も実施し、職員の意見を吸い上げられるように取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの勤務状況や努力を把握しスキルアップ出来る環境を整え、働くことに張り合いの持てる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格取得の要望がある場合には勤務の融通をつける等、職員自身がスキルアップできる環境整備に努めている。又施設側から資格取得を促している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から直接会うなどの交流は行っていないが、電話、FAX等で情報交換や困り事等の相談は随時している。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時、事前に見学を勧めているが、新型コロナウイルス感染防止の対応で充分でないが担当ケアマネより情報収集行い、事前面談時はご本人様より困っている事・不安な事・要望などお聞きし、不安が少しでも軽減されるような対応を心がけている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当ケアマネより情報収集を行い、申込時・事前面談時、ご本人様・ご家族様の要望や心配事をお聞きし、共にご本人様を支えるために協力していくことを伝えていく。新型コロナウイルス感染防止のため、面会等の制限があることを伝え、ご理解いただけるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談時心身の状態を出来る限り把握し、ご本人様の状態に対応するサービス内容を見極め、その人らしい生活が安心して送れるように、柔軟な対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居される前の人生体験や生活体験を、日常的な会話の中で何う場面を出来るだけ多く持つようにしている。ご本人様の今までの人生を把握することにより、信頼関係を少しずつ構築し、絆を深めている。			
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染症拡大防止により面会制限を継続している状況ではあるが、担当職員による近況報告を、文書や電話にて行っている。直接状態を見ていただけない分、少しの変化でも報告し、対応を共に検討するように努めている。	3ヶ月に1度は事業所広報をご家族にお送りしているほか、広報を送らない月には担当職員よりご利用者に応じて近況報告もお送りしています。受診・外出・外食の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の関係性が途切れないよう、親戚や友人等とご家族様の理解を取ったうえで、電話等でお話をいただいている。また、新型コロナの影響で、外出等もできない時期には、写真等を活用し、ご本人様の記憶を呼び覚ますような対応も適宜行っている。	知人の方に面会に来て頂いたり、ご家族の協力も得て自宅への外泊やお墓参り、行きつけの美容室に出かけたりと今までの関係継続支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に行動を細かく観察することによりご入居者様同士の関係を把握し、交流の促進をしている。日常生活の中で、ご入居者様が持っている能力を活用していただけるように、職員が誘導したり、役割分担をしたりして、自然にご入居者同士が触れ合える環境になるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退居となる方についても、その後特養申込等の相談に乗ったり、情報提供等に努めている。また、退居したあとでも、いつでも相談できることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、思いや希望、意向の把握を、非言語的な表現も含め、可能な限り汲み取り、ご入居者様に寄り添った支援に努めている。また、思いや意向等を記録に残し、職員全体で共有できるようにすると共に、ケアプランにも出来るだけ反映させられるように努めている。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は職員会議の場で連絡され、ケアプランの検討に活かされています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申込時、在宅担当ケアマネより情報の収集、事前面談時にはご本人様・ご家族様より情報収集、入居後にはご本人様との会話等にて把握している。	ご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご利用者の生活歴をより把握できるように、全てのご利用者に対して生活史シートを作成し、職員間で情報を共有しています。	センター方式の作成日に記載ミスがある方がいましたので、今後ミスのないように改善されることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送り時、状態・出来事等を確認し、変化等は重点的に周知できるように連絡ノートに記載している。業務に入る前には必ず目を通し、職員全員が情報共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時ご家族様と報告・相談を行い、生活についての要望等を把握している。短期目標の期間ごとにモニタリングを行い、ユニット職員、ケアマネで随時ケア内容の検討を実施している。状態変更時・認定更新時には、家族を含め関係者との担当者会議を行い、現状に即した介護計画を作成できるように努めている。。	3ヶ月に1度は担当介護職員と計画作成担当者がモニタリングを実施し、6ヶ月に1度のサービス担当者会議の前にはご家族の意向を確認し、介護計画に反映させています。	調査時点で介護計画書とモニタリングシートの目標が合わない方や、サービス担当者会議録に記載ミスがありましたので、今後改善されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録に、ご本人様の様子や言葉を記録し、毎日の申し送り時に報告している。全職員で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナ感染拡大防止の観点から、受診以外の個別の外出支援はしていない。ご本人様・ご家族様からの要望や希望に関しては、その都度相談しながら、施設側が対応できる範囲で対応するように努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナの影響により、地域資源も利用できない状況もあるが、都度状況の把握に努めている。コロナ禍でも「新しい生活様式」の中でご本人様の生活が豊かになるよう工夫と努力を重ねている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前、ご家族様と主治医や受診についての相談を行い、希望により主治医を決定している。主治医によって、往診の対応をいただいている。受診については基本的にご家族様に対応をお願いしているが、都合により職員で受診対応する場合もある。入居後は、施設側より状態等の報告も適宜しており、医療機関との連携にも努めている。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、往診にも来て頂いていますが、必要に応じ職員が同行し、医師との状況の確認が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々日常的な様子を看護師と共に把握・記録し、様子が違う等の状況が見られた場合には、看護師が状態を確認して、主治医等と連絡を取り、指示を仰ぐ等、適切な対応が出来るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、かかりつけ医・施設医より診療情報提供書を作成していただき、施設側からも日常の様子が記載してあるサマリーを提供している。入院後は、週1回程度を目安に状態の確認を行い、病院と連携図っている。早期退院に繋げられるように、状態に応じた対応方法を常に検討している。長期入院が予想される場合には、ご家族様・地域連携室SW等と相談を行い、今後の対応を相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時、看取りに関する方針を伝え「終末期ケアについての意向事前確認書」を頂いている。入居後は、ご入居者様の状態に応じて話し合いの場を持ち、施設で出来ないこと、出来ることを伝え、「看取り介護に関する説明及び同意書」を取り交わしている。ご入居者様・ご家族様の意向を確認し方針を決めている。その方針を全職員に伝え共有し、ご家族様そして主治医や看護師と連携をとり、支援をしている。	契約段階で管理者は看取りに関するホームの方針を伝え、同意書を頂いています。実際にホームで看取りの支援をしたご利用者もおり、ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え、主治医や看護師とも連携し支援しています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度のAED、心肺蘇生の研修は、3密に留意しながら、実施予定。緊急連絡網を作成し、いち早く駆け付ける事が出来る様、日々の申し送り時などで確認している。	消防署職員に来て頂き、心肺蘇生、AEDの使用研修を受けており、ホームでも食中毒や嘔吐物処理の研修を行い、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の避難訓練は9月新型コロナ感染防止の観点から1回の実施でした。今後10月から行う予定です。運営推進会議において、避難の方法等、総合事務所担当者等のご意見も伺い、対応内容などを確認した。又、緊急時全職員に一斉にメールを送信できるように設定済み。備蓄品、応急手当用品等の管理も定期的に点検している。	事業所にて地震や夜間の火災を想定した避難訓練を行なっています。町内の方にも避難訓練に参加してもらっているほか、災害時を想定した非常用の食品や水も確保されています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	契約時、プライバシーの保護に関しての説明をし同意をいただいている。ご本人の意思を確認し、ご本人が望む生活の実現を常に考え、共に寄り添いながら歩んでいくような対応を心掛けている。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように職員会議の場等で徹底されています。また、広報や事業所内の写真の掲載についても契約時に確認が取られています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉以外の表現方法や仕草からも思い等を感じ取れるよう、日々の関わりを行っている。思いや希望がうまく伝えられない方には、複数の選択枝を用意する等、できるだけ自己決定していただけるように工夫して対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の体調をみながら、時間での対応はせず、希望をその都度聞きながら過ごして頂き、出来た事の喜びを共に感じ生き甲斐のある生活を送って頂ける様、個別支援を行っている。一人ひとりのペースを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時、衣類を職員と一緒に選んでいる。散髪を希望される方には、新型コロナウイルス感染防止の対応をしっかりと行った上で、訪問理美容等の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝いの出来る方には参加頂いている。畑で収穫した野菜がある時には、昔話をしながら一緒に収穫している。彩りや盛り付けの手伝いもして頂き、食器などは、食べやすい形状の物を選んでいる。ご入居者様の嗜好や禁食、嚥下状態等を把握し、状態に応じた食事形態にしている。ご入居者様が満足頂ける様、楽しい食卓を目指している。	調理や後片付けもご利用者と一緒に行っているほか、事業所の畑での野菜の収穫はご利用者の楽しみとなっています。ご家族にも協力して頂き、ご利用者の要望に合わせて外出に出かける等の支援も行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録し、バランスが崩れていないか確認している。個人で飲み物の好みは異なるため、ご本人に合った水分摂取方法をそれぞれ取っている。嚥下機能が低下している方には、とろみをつけ、見守りしながら摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、できる方は自身でしていただき、不十分と思われる方には、声掛けや見守りをし、職員が最後全ての方について確認おこなっている。異常があれば、ご家族様へ相談し、必要に応じて歯科への受診をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、個々の排泄パターンや排泄習慣等を把握している。把握した状態を全ての職員が把握することにより、その方に合った排泄対応ができ、失禁やおむつ使用の軽減ができるように努めている。また、ご本人に合った対応を行い排泄でのストレスを減らし、自立支援に向けて努力している。	ご利用者全員に排泄チェックを行ない、排便の状況に合わせてご利用者に合わせた下剤を調整するなど、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	施設内歩行・屋外での散歩・体操等で個人に合った体を動かす時間をもうけている。食事面では畑で取れた野菜を多く使用している。起床時冷水摂取していただいたり、医師・看護師と連携とり対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日々の体調や精神的な状態を確認しながら、ご本人の希望や気持ちを大切に、概ね週2回の程度入浴していただいている。	お風呂は一般浴槽と特殊浴槽があり、週2回、午前での入浴支援が基本ですが、ご利用者の希望に添った時間帯に合わせて入浴支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活のペースで自由に過ごしていただいている。寝付けない時には傾聴したり、話をしながら温かい飲み物を飲んで頂いたりしている。出来るだけ寄り添った対応を心がけ、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者様の服薬情報を個別ファイルに綴り、職員がいつでも確認できる様にしている。薬は看護師がセットし、変化等の確認をしている。服薬時は、誤薬が無いように一人一人ダブルチェックで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、経験や体験を聞き取り、できる事や得意なことを見つけ、役割を持って生活できるように支援している。同時に、ご本人が張り合い・喜びに繋がられるよう、昔なじみの遊び等、レクリエーションとして導入している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご入居者様の希望により個別の外出支援をしている。新型コロナ感染防止の対策をしっかりとした上で、行きつけのスーパー・自宅への外出・外泊等、ご家族様の協力もいただきながら対応している。新型コロナ対策を行った上で、ドライブも行っている。	ご利用者と一緒に近くのスーパーに食材の買物に出かけたり、季節に合わせたお花見やぶどう狩り、はす見学やあじさい見学などの外出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望により少額の現金を所持している方もいる。希望があれば、日用品や衣類等、ご本人と共に購入できるように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のやり取りは自由にいただいている。手紙のやり取りも自由にいただいております。投函等も支援しています。ご家族様のご希望で、ご本人とお話していただくこともしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごして頂ける様、室温調整をこまめに調整していただいております。定期的窓を開け、空気の入れ替えをしています。テレビの音も会話の妨げにならないように、適音量調整しています。又、異食等の危険が無いように置く場所等配慮しながら、季節の花を飾ったり、季節を感じられるような切り絵等を、ご入居者様と職員と一緒に制作しています。	共有スペースは広々として開放感があります。共有スペースにある置の小上がりはご利用者がお昼寝をしたり、洗濯ものを畳んだりして過ごせる場所です。飾られている装飾品も季節に合わせてあるほか、活動の様子をまとめた写真も掲示されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、気分転換や他のご入居者様との交流を促進するため、席替えも適宜行っている。居心地が良い場所をご本人に自由に選んでいただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者様が自宅等で使い慣れたものやなじみの品を持ち込みしていただき、ご本人が、生活の場として混乱を少しでも無くし、安心して過ごせる様工夫しています。仏壇・位牌等持込されている方もいます。ご本人の趣味や趣向に合わせて、自分の居室という雰囲気を出せるように工夫しています。	居室には仏壇やラジオ、本などの使い慣れた物を自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内では、ご本人様の希望や動きに合わせて家具等を配置したり、名前等文字だけの表示ではなく、居室の入口に写真や絵等を飾り、自分の部屋がわかるようにしている。共同で使用する部屋や廊下等に案内の表示をすることで、自立して移動できるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				